

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 3 月 12 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (3/12 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.7 m <sup>3</sup> /h	22.8	105.3 kPaabs	0.00 vol%
		給水系：約 4.7 m <sup>3</sup> /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 6.0 m <sup>3</sup> /h	42.3	122 kPaabs	0.07 vol%
		給水系：約 2.8 m <sup>3</sup> /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.2 m <sup>3</sup> /h	52.8	101.6 kPaabs	
		給水系：約 1.8 m <sup>3</sup> /h			

### 【1号機】【2号機】【3号機】

・3/12 11:47 頃 当社社員が1～3号機原子炉格納容器および原子炉压力容器へ窒素供給を行っている窒素供給装置（窒素ガス分離装置A）において、圧縮機のファンモータ過電流警報により、当該装置が停止していることを現場にて確認。12:09、待機中の窒素供給装置（窒素ガス分離装置B）を起動し、12:19、窒素封入を再開。この間1～3号機格納容器圧力および水素濃度について、有意な変動は確認されていない（3号機の水素濃度は、格納容器ガス管理システムが調整運転中のため、参考値にて監視中）。

### 【4号機】【5号機】【6号機】・特に変化なし

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (3/12 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中*	27.0
2号機	循環冷却システム	運転中	14.3
3号機	循環冷却システム	運転中	14.2
4号機	循環冷却システム	運転中	26

\*システム二次系エアフィンクーラー：停止中

【2号機】・1/19 11:50～ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 ( 高温焼却炉建屋 ) ]	3/11 8:47～ 移送実施中
	タービン建屋		
3号機	3号機	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 ( 高温焼却炉建屋 ) ]	3/10 10:10～ 移送実施中
	タービン建屋		
6号機	6号機 タービン建屋	仮設タンク	3/12 10:00～16:00 移送実施

・3/12 8:37～13:31 集中廃棄物処理施設においてサイトバンカ建屋からプロセス主建屋へ溜まり水の移送を実施。

#### <4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (3/12 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H24/3/1～ 水処理設備の信頼性向上を目的とした改造工事のため、セシウム吸着装置を停止\*(3/15迄、停止予定)。  
3/10 第二セシウム吸着装置は水処理設備の信頼性向上を目的とした改造工事が終了したことから、17:00 に起動し、18:34 に定常流量(約 42m<sup>3</sup>/h)に到達。  
※改造工事に伴う水処理設備の停止による各建屋の水位上昇を評価したところ、各建屋の水位は制限内に維持可能であることを確認している。また、淡水化处理した水は十分にあることから、原子炉注水への影響もない。

#### <5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/2/20 15:43 頃 2号機原子炉格納容器ガス管理システムの希ガスモニタB系において、画面上にエラーメッセージが表示されていることを確認。これにより、B系の希ガス濃度について、免震重要棟集中監視室での確認が不能となった。当該装置には監視機能がA系、B系の2系統あり、エラーメッセージの出ていないA系にて監視を継続。
- H24/2/21 17:20 頃 A系においても同様のエラーメッセージが確認され、希ガス濃度について、免震重要棟集中監視室での確認が不能となった。現場の状況を確認した結果、現場から免震重要棟集中監視室までのデータ伝送系の異常が原因であることが判明。ただし、A系、B系共に現場のモニタにより監視が可能であり、現場のモニタ画面をカメラにより、免震重要棟集中監視室で遠隔監視できていることから、未臨界の確認についても問題はない。なお、2号機原子炉格納容器ガス管理システム自体は正常に運転中。
- H24/3/12 14:00 両系統の伝送ソフトウェアの修正を行い(A系:3/9 B系:3/12)、免震重要棟での確認が可能となったため、免震重要棟集中監視室でのデータ採取を再開。

以上